

## ITP 派遣報告書

以下の通り、東京外国語大学若手研究者トレーニングプログラムによる派遣報告をいたします。

### 1. 氏名・所属

武沼慧

東京外国語大学大学院博士前期課程地域国際専攻地域研究コース（藤井毅教官）

### 2. 派遣先機関名、受入教員名

・ ロンドン大学アジアアフリカ研究学院（SOAS）

（受入教官） Peter Robb（Department of History, Research Professor of the History of India）

・ 英国図書館（British Library）

### 3. 派遣期間

2012年2月4日～4月6日（計2か月）

### 4. 研究テーマ

コミュニアリズムにおけるシュッディ・サンガタン

### 5. 研究の概要

南アジアの文脈でしばしばコミュニアリズム問題とよばれるヒンドゥー・ムスリム対立は、歴史的に、また現代社会においても重要かつ深刻な問題であり続けている。本研究は、植民地期インドにおけるその形成・発展を明らかにするものである。とくに、シュッディ<sup>1</sup>、

---

<sup>1</sup> शुद्धि “浄化”の意だが、19世紀後半に社会宗教改革団体アーリヤ・サマージによって古来の「穢れの浄化およびその儀式」という意味内容に再解釈がなされ、「改宗」および「再改宗」を促す運動をさす語となった。過去にヒンドゥー教徒であった不可触民で、差別などのためにキリスト教やイスラームに改宗してしまった人々を再改宗させてヒンドゥー教社会に戻す活動として展開されたが、のちに、ヒンドゥー教徒であった過去がない他宗教徒を改宗させる活動も含むようになった。シュッディは、その内容や方法をめぐり、当初から他のヒンドゥー教組織や他宗教コミュニティーとの間に多くの対立を生んだが、とりわけイスラームとの対立は激烈なものとなった。

およびシュッディと深く結びついて展開されたサンガタン<sup>2</sup>をめぐる、ヒンドゥー・ムスリム間対立を取り上げ、分析する。

この対立の際に、ヒンドゥー・ムスリム双方からトラクトとよばれる小冊子を中心とした、数多くの出版物が出され激しい論争が行われたことに、本研究は着目する。いくつかの先行研究がすでにこうした出版物の存在および影響を指摘しているが、その分析は限定的で、詳細な分析はあまり試みられてこなかった。とくに現地語で書かれたものに関しては、未だ課題として残されている。ヒンドゥー・ムスリム双方の分析により包括的なコミュニティ研究を目指す本研究では、ヒンディー語、ウルドゥー語両言語の資料分析をその一課題と位置付ける。

これらに基づき、今回の派遣では SOAS で論文執筆に向けた指導を受け、英国図書館（以下 BL）で資料調査をおこなった。

## 6. 活動内容と具体的成果

### ①SOAS での活動

SOAS で指導教官をお願いした Peter Robb 氏とは、二月の末頃に最初の面談を行い、資料状況や調査方法、参考図書などのアドバイスを受けた。さらに、同氏から、南アジア史のリサーチ・セミナーにお招きいただき、期間中 3 回のセミナーを聴講した。取り上げられたテーマや対象地域は多様で、視野を広げるよい機会となったほか、資料の分析方法など良い参考になった。SOAS の研究者たちとのネットワークを築くことができたのも一つの収穫である。

また SOAS の図書館では、日本では閲覧できない研究書をいくつか読むことができた。また、コミュニティ研究に関しても本図書館は豊富な資料を所有しているため、派遣期間中大いに活用することができた。

### ②トラクト収集

今回、トラクトを中心としたヒンディー語出版物を約 40 冊確認し、うち 7 冊持ち帰ることができた。また、ウルドゥー語トラクトに関しても、約 40 冊確認、計 12 冊持ち帰った。修士論文において中核的となる資料をいくつか持ち帰ることができたのは、大きな収穫である。

ヒンディー語のものに関しては、

- ① Barnett, L.D., Blumhardt, J.F., *Second supplementary catalogue of printed books in Hindi, Bihari (including Bhojpuri, Kaurmali and Maithili) and Pahari (including*

---

<sup>2</sup> संगठन “組織化・強化”の意。「弱体化し、拡散したヒンドゥー教徒コミュニティ」という問題意識のもと、ヒンドゥー教徒コミュニティを組織し強化することで他宗教に対抗するために、ヒンドゥー教徒の利益保護を目的とする団体であるヒンドゥー・マハー・サバーを中心に展開された。

- Nepali or Khaskura, Jaunsari, Mandeali etc) in the British Museum* (London, 1957)
- ② Blumhardt, J.F., *A supplementary catalogue of Hindi books in the Library of the British Museum : acquired during the years 1893-1912* (London, Trustees of the British Museum, 1913)
- ③ Blumhardt, J.F., *Catalogues of the Hindi, Panjabi, Sindhi, and Pushtu printed books in the Library of the British Museum* (London, B. Quaritch, 1893)
- ④ Blumhardt, J.F., *Catalogue of the Hindi, Panjabi and Hindustani manuscripts in the library of the British Museum* (London, [Gilbert and Rivington], 1899)
- ⑤ *I.O. (India Office) Catalogue of Hindi Books (1903-1944)*<sup>3</sup>
- ⑥ India Office Library, *Catalogue of the Library of the India Office, Vol.2(3) : Hindi, Panjabi, Pushtu, and Sindhi books* (London, Eyre and Spottiswoode, 1902)

の6点のカタログが、本研究の資料収集と関連するものである。今回はシュッディヤサンガタンの活動時期と特に重なる時期に習得された出版物のカタログである①⑤を点検した。当然のことながら、今後の課題として前後の時期を扱っている残りのカタログの点検を行う必要がある。

ウルドゥー語のトラクトに関しては、

- ⑦ Salim Al-din Quraishi, *Catalogue of Urdu Books in the India Office Library 1800-1920 : Supplementary to James Fuller Blumhardt's catalogue of 1900* (London, India Office Library and Records, 1982)

から資料収集を行った。このほかに、

- ⑧ *I.O. (India Office) Catalogue of Urdu Books 1900-1939*<sup>4</sup>

の点検の必要がある。ヒンディー語・ウルドゥー語ともに、確認資料は別紙で一覧にしている。

なお、今回確認した出版物の多くは状態が良好でなく、嚴重に管理されている。一部は損傷が激しいか、破損の恐れがあるため機械による複写が禁じられているものが多い。よって、入力や書き写しをしないではいけないうえ、BLでは一日に10冊しかオーダーすることができない。そのうえ、本調査で扱う出版物の多くがBL内ではなくヨークシャーに保管されているため、手元に届くのに2~3日程度かかってしまう。このような状況により、本研究の資料調査には多くの労力と時間を要する。こうした事情を知ることができたのも、ひとつの成果であろう。

### ③旧インド省公文書資料調査

<sup>3</sup> この目録は、カードカタログをコピーして製本したものであり、公刊されたものではない。計13冊。

<sup>4</sup> 脚注1同様、カードカタログをコピーしたものの製本であり、公刊されていない。計9冊。

公文書のうち、今回は主に Web からの検索ができない Proceedings の確認を目的として調査を行った。研究対象に含まれる 1920 年代には Proceedings が徐々に廃止されていったという状況を踏まえ、今回は資料の実態調査が主な作業となった。

シュッディやサンガタンに直接関係する資料を今回は見つけることができなかったが、ヒन्दゥー・ムスリム対立関係の文書を確認し、対立をめぐるイギリス政府の認識の流れを概観することができたことは、有意義な成果である。

本研究で特に関連するのは、(1)Foreign, Political and Secret series と、(2)Public, General and Home Series であり、これらの所在確認を行った。その後、Home Department (Political, Confidential) の 1920 年代で確認できる年次ファイルのインデックスから研究関連文書を確認した。こちらも関係文書の一覧をトラクト同様、別紙にまとめている。

## 7. 今後の課題

今回の派遣では、目録点検および収集作業が中心だったため、今後具体的な資料の分析作業を行う。また、分析作業を通じながら、徐々に論文構成を具体化し、執筆作業にとりかかりたい。なお、論文提出は 2014 年 1 月を予定している。

トラクト収集に関しては、上述⑤の点検作業がまだ半分程度残っている。また、今回確認ができなかったカタログのうちとりわけ重要な⑧などは、Web にデータがあがっていないカタログであるので、再度 BL でカタログ調査を行う予定である。また、取り扱う時代の関係から、ヒンディー語のみならずヒンドゥスターニー語の文献も確認するのが望ましく、関連するカタログとして、

⑨British Library, *Catalogue of Hindustani printed books in the library of the British Museum* (London, 1889)

⑩India Office Library, *Catalogue of the Library of the India Office, Hindustani books* (London, Eyre & Spottiswoode, 1900)

があるので今後の課題のひとつとして取り組みたい。

Proceedings については、諸史料の所在状況の確認はできたものの、詳細なインデックス点検に関しては断片的なものにとどまってしまったので、今後改めて取り組みたい。とくに、Public, General and Home Series の網羅的点検が必要であり、こちらも Web にデータが登録されていないため BL での資料調査を行わなくてはならない。また、今回確認した資料の実際の文書はインドのナショナル・アーカイブスに保管されているものが多く、近い将来インドに赴く必要もある。